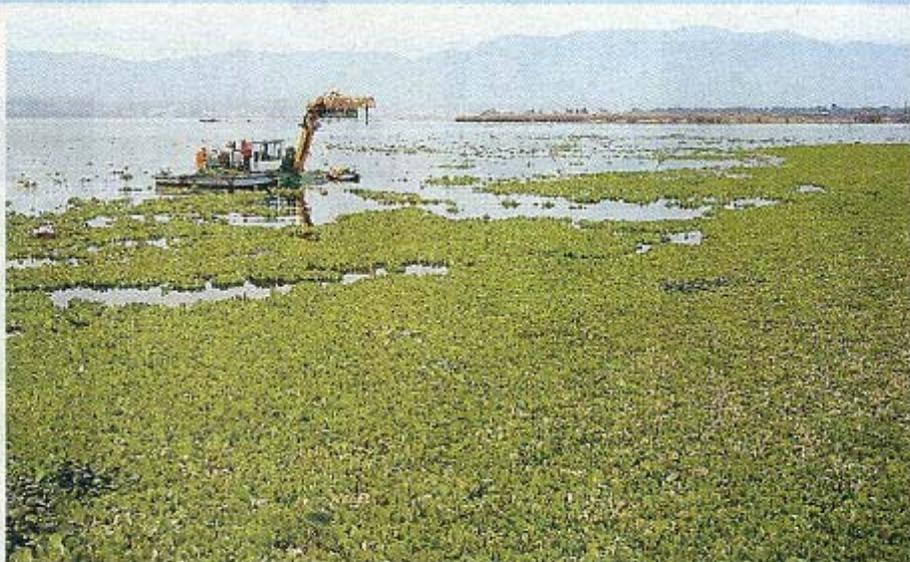


ワイド 滋賀ニュース

湖面を埋め尽くすポタンウキクサ（11月29日）



滋賀県が守山市の琵琶湖・赤野井湾に大発生した水草のポタンウキクサの除去を始めて一週間たった五日、湾内を埋め尽くしていた水草の約八割が取り除かれ、緑に覆われていた湖面が元の姿に戻った。外来種のポタンウキクサ

守山・赤野井湾 水草刈り取り

は九月に発生したとみられ、同湾内の岸に沿って約六千平方メートルに群生していた。生態系への影響を懸念した県が先月二十九日に初めて水草刈り取り船による

1週間で100ト超回収

除去に乗り出し、これまでに計一〇九・二トを回収した。残る水草も七日ころまでに除去する予定で、県自然環境保全課は「刈り取り船による除去が有効なことが分かった。越冬する個体が出る可能性もあり、今後にも注意深く見守る必要がある」としている。

（柿木拓洋）

琵琶湖 ↓ すっきり



除去開始から1週間たちすっきりした琵琶湖（守山市・赤野井湾）